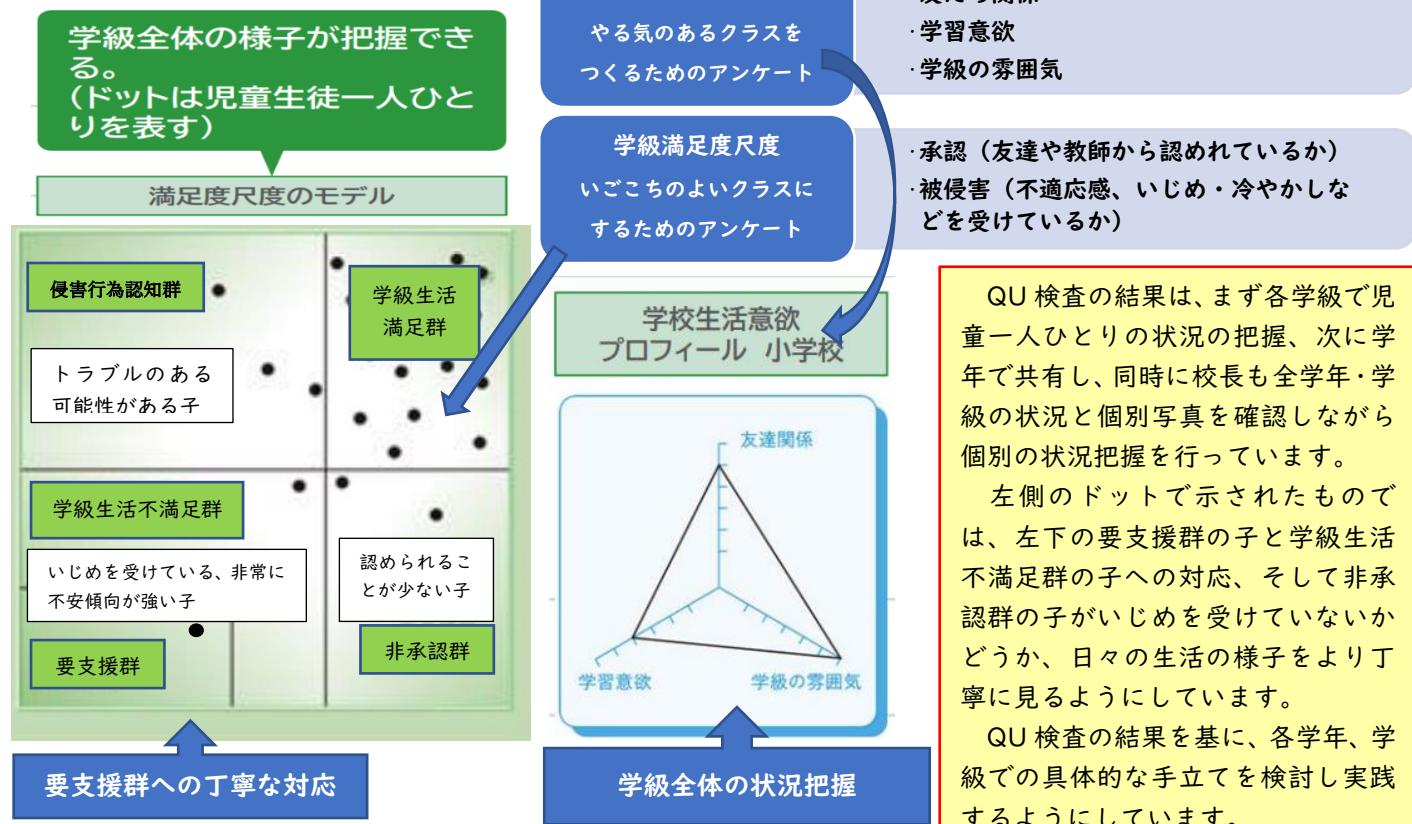




QU検査 楽しい学校生活を送るためのアンケート

南城市立学校では、学校生活意欲と学級満足度の2つの尺度で構成するQU検査を実施しています。小学校は1年生間1回、2年生から6年生までは1学期に1回、2学期に1回の計2回実施しています。この検査は学級経営のための有効な資料が得られ、学級診断アセスメントとして活用しています。結果からは、いじめや不登校などの問題行動の予防と対策にも活用することができます。



言葉遣いについて

子どもたちの言葉遣いが気になることがあります。「死ね」「ばか」など相手に言ってはダメだとわかっていても言う子がいます。その様な状況では上のQU検査でも悪い結果がでると思います。言葉遣いが悪い子を見ていると、多くの子は自分自身がそのような言葉を言わっていないか心配になります。また、言葉遣いが悪い子の多くが、自己肯定感が低いようにも思えます。ちなみに自己肯定感とは、自分自身を無条件に受け入れ、価値ある存在として認識する感覚のことを言います。学校では、学校生活全般において、相手を思いやることができるように、授業場面でも、みんなが安心して発言ができるような取組を行っていきます。各家庭や、大人が子どもと関わるあらゆる場面においても言葉遣いを丁寧にしていきましょう。また、子どもたちの言葉遣いにも関心を持ちましょう。ゲームをしているときにとっても乱暴な言葉遣いをする子もいるようです。その場での声かけが大切ですね。

新聞報道で「怒鳴る指導」保護者の3割容認(沖縄県スポーツ協会調査)がありました。沖縄県は全国的に比較してもとても高い状況にあります。県内の高校部活でとても悲しいことがあったにも関わらず、選手育成には怒鳴ってもいいという感覚が残っています。子どもたちが人権感覚を持った言葉遣いをするためにも、私たち大人が素敵な言葉遣いをしていくことが求められます。子どもたちを変えるには、まず、大人が変わらなければなりません。「問いかける」大人が、子どもを変え、伸ばしていくと思います。課題が発生した時、頭ごなしに怒るのではなく、「何がいけないと思う?」「どうしたらいいと思う?」などと問いかけること、そうすることが自分で考え、動ける子どもになり、自己肯定感も高まると思います。自己肯定感が高まった子は他人に対してゆとりを持って接することができ、結果として言葉遣いがよくなると思います。